

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
アイチダイガク	ケイエイガクブ	フルカワゼミ
愛知大学	経営学部	古川ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
ポイフル	ニワリクト	4 人
POIFULL	丹羽陸人	

研究テーマ（発表タイトル）

脱プラスチック

1. 研究概要（目的・狙いなど）

海洋プラスチックごみ問題の現状、それに対する日本の取り組みを調べた結果、消費者の行動が最も重要であることが分かったため、消費者の脱プラスチックの取り組みを促進し、海洋プラスチックごみ問題の改善につなげることを目的とする。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在、海洋プラスチックごみ問題は主要 20 か国地域首脳会議（G20）でも重要な議題として挙げられるほど世界的な問題となっている。海洋プラスチックごみは、普段使用するプラスチックごみが適切に処理されず、海に流れ出ることにより、生態系を含めた海洋環境への影響や漁業など様々な場面で問題を起こすことを指す。海洋に流入するごみの重さは 2050 年には海洋生物の重さを超えると予測される。日本は現在、50%以上がサーマルリサイクルを通してプラスチックごみ削減の取り組みを進めているが、実際この方法は焼却の際、大量の二酸化炭素が発生するなどの環境面での課題を抱えており、15.6%を占める廃棄処分においても最終処分場の残余年数は 20.5%と限界がある。実際にきちんと物から物へ再利用できているのは 23%である。

以上のことから、プラスチックの使用を根本的に減らす脱プラスチックの取り組みが必要となる。

企業の脱プラスチックへの意識は高くなり、その意識が製品に反映されている。また、法律の制定が各国で進められており、海外でレジ袋の有料化・課税を取り入れている国は 25 か国、製造・販売・禁止をしている国は 41 か国もある。特に EU 諸国では積極的に取り組みが進んでおり、様々な対策が講じられている。

3. 研究テーマの課題

今回の研究で最も大きな課題となるのは、日本のプラスチックの排出量が世界第 2 位にもかかわらず、日本の海洋プラスチック問題の認知度の低く、脱プラスチック取り組みが遅いことである。現状分析でも示したように海外でレジ袋の有料化が進んでいるが、日本では推進中や計画段階のものしかなく、実際に禁止事項を含んだ法律は作られていない。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

日本には国全体としての取り組みが少ないため、脱プラスチックは私たち消費者が主体的に行動することが必要になる。つまり倫理的に消費行動(エシカル消費)を行わないと社会問題の解決にはならないだろう。そこで海洋プラスチックごみ問題の現状、解決策などの概要を伝えることで、日常的行動が変化するのではないかと、仮説として立てた。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケートは2回に分けて実施。

アンケート対象は大学生、アンケート実施日は10月16日、23日に紙媒体を使用して行った。1回目のアンケートでは、アンケート用紙の表面を利用し、海洋プラスチックごみ問題に対して元々アンケート対象者がこの問題を知っていたかどうか、またこの問題に対する取り組みをしているかを調査した。その後、一度私たちが海洋プラスチックごみ問題について説明。その説明を聞いたうえで、アンケート用紙の裏面を利用して、対象者の海洋プラスチックごみ問題の意識調査。2回目のアンケートは1週間後に同じ対象者に向けて行い、行動に変化が見られたかどうかを調査した。

6. 結果や今後の取り組み

アンケート結果から、海洋プラスチックごみ問題の認知のみでは、消費者行動の変化を行うのは困難であることがわかった。

この問題を解決するために私たちは、愛知大学に対して、ウォーターサーバーを大学内に設置することを提案した。

この理由として、常に自分の身の回りに脱プラスチックを自然と行えるような環境を作ることで、周りの環境を変化させ消費者の行動を変えることができると考えたからである。ウォーターサーバーを目に入る場所に設置することで、学生たちが自然と利用するようになり、毎日ペットボトルを購入する必要がなくなるため、経済面でも脱プラスチックの行動を後押しすることができるのではないかな。また、今回の提案がもし実現し、学生の行動が積極的ならば、さらに提案する幅を広げていきたい。

7. 参考文献

- 海洋プラスチック問題の解決に向けた環境省の取組について https://www.env.go.jp/water/marine_litter/mpl1-d3-1.pdf （最終アクセス日 2019.10.31）
- 海洋プラスチック問題について
<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html> （最終アクセス日 2019.10.31）
- 海洋プラスチック問題について
<https://www.env.go.jp/council/03recycle> （最終アクセス日 2019.10.31）
- プラスチックごみをめぐる最近の動向
<http://www.sangiin.go.jp> （最終アクセス日 2019.10.31）
- 国際連合環境計画（UNEP）（2018）「シングルユースプラスチック」
SINGLE-USE PLASTICS: A Roadmap for Sustainability
- Neufeld, L., Stassen, F., Sheppard, R., Gilman, T. (2016) "The new plastics economy: rethinking the future of plastics", *World Economic Forum* <https://jp.weforum.org/reports/the-new-plastics-economy-rethinking-the-future-of-plastics> （最終アクセス日 2019.11.8）
- 中野かおり（2018）「プラスチックごみをめぐる最近の動向ー海洋プラスチックごみ問題への取組ー」『立法と調査』406号 pp.48-57
- Schrader, U. and Thøgersen, J. (2011) "Putting Sustainable Consumption into Practice", *Journal of consumer policy*, (34), pp. 3-8

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

なし

●発表時に使用する成果物（例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】 ※「第10回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑